
[成果情報名] ダイズのミナミアオカメムシに対する薬剤防除時期

[要約] ダイズのミナミアオカメムシに対し、ダントツH粉剤DLを開花期後30日頃に1回散布することで安定した被害粒低減効果が得られる。開花期後20日頃および40日頃の2回、ダントツH粉剤DLまたはトレボン粉剤DLを散布すれば、さらに高い効果が得られる。

[キーワード] ダイズ、ミナミアオカメムシ、防除時期、薬剤

[担当部署] 病害虫部・病害虫チーム

[連絡先] 092-924-2938

[対象作物] 大豆

[専門項目] 病害虫

[成果分類] 技術改良

[背景・ねらい]

ミナミアオカメムシは2001年に福岡県内で初確認された後、県内で分布を拡大し、現在では県内各地のダイズで多発して問題となっている。本虫は従来発生していたホソヘリカメムシ、イチモンジカメムシ、アオクサカメムシとは異なる発生様相を示すため、ダイズのカメムシ類ではミナミアオカメムシを対象とした防除を重点的に実施する必要がある。そこで、ミナミアオカメムシのダイズほ場における発生活消長および防除方法を明らかにする。

(要望機関名 : 病害虫防除所 (H20))

[成果の内容・特徴]

- 1 . ダイズの開花期後30日頃はミナミアオカメムシ幼虫の発生初期に当たり防除適期である。この時期にダントツH粉剤DLを1回散布すれば安定した被害粒低減効果が得られる (図1、図2)。
- 2 . ダントツH粉剤DLまたはトレボン粉剤DLを開花期後20日頃および40日頃の2回散布すれば、被害粒低減効果は開花期後30日頃の1回散布より高まる (図2)。

[成果の活用面・留意点]

- 1 . 「病害虫・雑草防除の手引き」に搭載し、ダイズにおけるミナミアオカメムシ防除の技術資料として活用する。

[具体的データ]

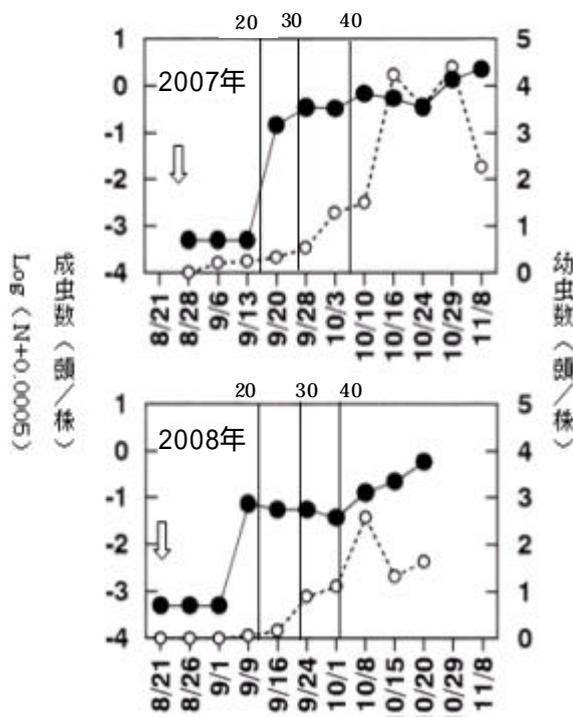


図1 ダイズにおけるミナミアオカメムシの発生消長（平成19、20年）

注) ● : 成虫、○ : 幼虫、↓ : 開花期、図中の縦線とその上部の数値は開花期後日数を示す。

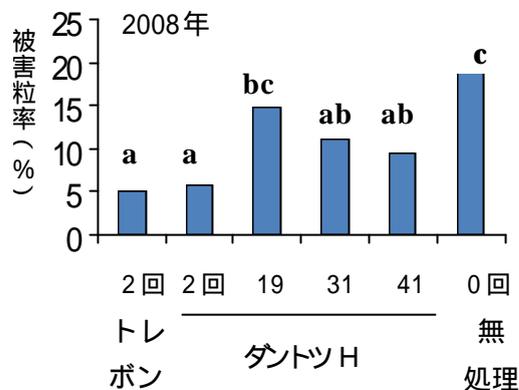
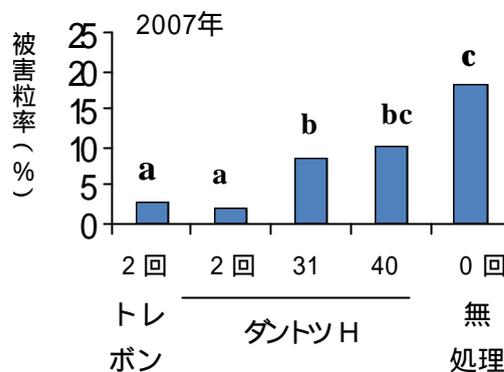


図2 薬剤の散布時期・回数と被害粒低減効果（平成19、20年）

注) 1. 19、31、40、41は開花期後経過日数で、それぞれダントツH粉剤DLを1回散布したことを示す。
 2. 2回は開花期後20日と40日または19日と41日の計2回ダントツH粉剤DLまたはトレボン粉剤DLを散布したことを示す。
 3. それぞれの図中の異なる英小文字間に有意差あり ($p < 0.05$ 、Tukey HSD 検定)。

[その他]

研究課題名：大豆主要害虫に対する発生予察法の実証と防除技術の体系化

予算区分：独法受託（生物機能プロ）

研究期間：平成20年度（平成18～20年度）

研究担当者：中村利宣、清水信孝